

「下水道と家庭用品」

21世紀
水倶楽部
横浜でシンポジウム開催

NPO法人・21世紀水倶楽部（理事長＝大迫健一・千葉工大教授）は7月29日、横浜市のパシフィコ横浜で「下水道と家庭用品を考える」をテーマにシンポジウムを開催した。トイレ洗浄剤など様々な家庭用品が下水道に流入し、管さよや水処理への影響が懸念されるため、実態を調査し監視方法や制御方法を確立する必

要がある――との考えで一致した。

パネリストの南山瑞彦・国土技術政策総合研究所下水処理研究室長は、下水道に流入する汚水の水質等の実態調査の概要を紹介、「トイレ洗浄剤などが大量に普及した場合、下水道への影響が心配だが、未解明な点が多いので継続的な調査を行っていく必要がある



と述べた。井須紀文・INAX創造技術研究室長は、節水型、

「下水道と家庭用品」でシンポジウム

省エネ型設備の開発状況を紹介した。

服部孝子・横浜市消費者団体連合会事務局長は「生活者から見た下水道」、北谷道則・横浜市下水道局水質管理課長補佐は「下水道管理からの視

点」で発表した。